

緑の相談所だより

- 57号 -

1999. 4. 1発行 編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

講習会のお知らせ

春の園芸作業

日時 4月11日(日) 午後1:30～3:30

講師 旭川市緑の相談所 相談 佐野 元雄

花壇の楽しみ方

日時 4月25日(日) 午後1:30～3:30

講師 フラワーマスター 本郷 仁

家庭菜園の楽しみ方

日時 5月9日(日) 午後1:30～3:30

講師 旭川市緑の相談所 相談 佐野 元雄

日本のラン作り方と楽しみ方

日時 5月23日(日) 午後1:30～3:30

講師 フラワーマスター 本郷 仁

いずれも定員50名 無料 お申し込みは ☎65-5553へ

緑の相談所では

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

- ◆相談コーナー◆ 草花の植栽方法、施肥及び病害虫防除などについて花と緑のエキスパートである緑の相談員が相談をお受けします。
電話での相談もお受けしますので、お気軽にどうぞ。
- ◆図書コーナー◆ 花壇づくりや園芸など緑に関する専門書や入門書、雑誌及び各種資料を揃えています。
- ◆視聴覚コーナー◆ 「趣味の園芸」「フラワーアレンジメント」など、緑に関するビデオテープを用意しています。
ご自由にご覧いただけます。
- ◆植物展示室◆ 熱帯植物、ラン類、四季折々の草花など、年中楽しめる緑の施設をご覧ください。

神楽岡公園を歩こう

例年になく大雪だった旭川もようやく春の日差しを感じるようになりました。
 雪がとけるのを待っている草花や芽だしを準備している木々。
 のびやかな声でさえずりながら餌をついばむ小鳥たち。
 散策を楽しみながら、新しい生命の息吹を感じさせる植物との出会いと感動を味わって
 みませんか。
 あなたはいくつの喜びを見つけることが出来るでしょうか？



エンジュ



ニリンソウ



オオバタノエンレイソウ



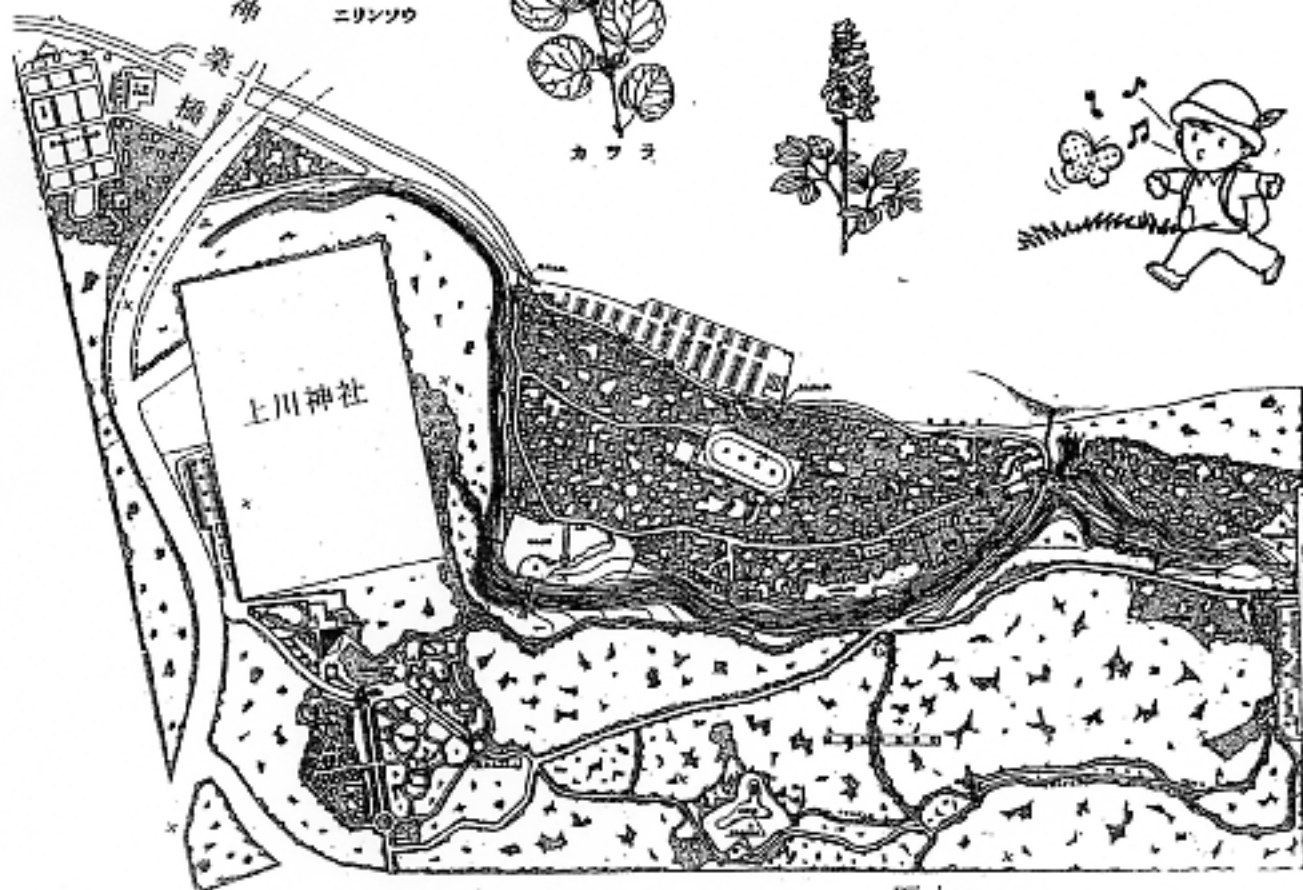
ヒトリシズカ



キキョブシ



カヅラ



→ 医大へ

果樹と庭木の防除 (4～5月)

昨年、サクランボやスモモなど収穫の時になって実の中にムシが入っているのを見つけた(シンクイムシ)、イチイやモミジ、ツツジなど庭木にカイガラムシがつき、幹や葉が真っ黒になるなど種々の害虫の被害で苦勞された方も多かったようです。防除が不十分ですと今年もさらに大きな被害に広がる怖れがあります。

暖かくなり果樹や庭木の花が咲き出し新しい芽を伸ばすころになると、冬の間にどこかに隠れていた害虫も活発な活動に入ります。

この時期の防除が最も有効で被害を少なくする決め手になります。被害を発見したときはもう手遅れです。

今年こそ防除のタイミングを逃さないようにしましょう。

サクランボのシンクイ (オウトウハマダラミバエ)

木の下の中や落葉の下で越冬していた蛹が、花の咲くころから実の太りだすころにかけて親のハエになり、果実の中に穴をあけ卵を生み、孵化した幼虫が中身を食べながら被害をあたえます。

防除法 ～ 花の咲くころから実が太り出すまでの期間、開花中を避け5～7日ごとに殺虫剤(スミチオン等)を散布します。雪解け直後木の下に落葉などを清掃し、浅く中耕することも有効です。

スモモ・ナシ・リンゴのシンクイ (ナシヒメシンクイ)

枝や幹の割れ目、裂目、地面に落ちていた枯れ枝等で越冬したマユから、実の太りだすころ褐色の「ガ」が出てきて、若い果実、新梢に卵を産み付け、孵化した幼虫は果実に食い込み内部を食い荒らします。ムシの入った果実の表面の小さな穴からはヤニとオガクズ状の糞を出します。年2回程発生することもあります。

防除法 ～ 実の太りだすころ、果実を中心に殺虫剤(スミチオン等)を5日ごと2～3回散布します。早春木の割れ目等からマユを探し出し捕殺することも有効です。

イチイ等のカイガラムシ類

昨年はイチイで大発生しましたが、種々の庭木の幹の肌、割れ目、常緑樹の葉の裏等で越冬した卵(成虫)から孵化した幼虫が若い幹、新葉に移動し樹液を吸い木を弱らせまた透明な油状の分泌物を排泄し、これに黒いカビが発生し(スス病)木の美観を損ねます。

防除法 ～ 葉にベトベトした蜜のようなものがつくると幼虫期です。殺虫剤(カルホス・スプラサイド等)散布します。5月になって暖かい日が続いたような時はとくに要注意です。また農薬は成虫・卵には効果がありません。

植物迷名考 その1 学名の由来と名もない花や草

太陽系第3惑星地球…またの名をアクエリアス（水の惑星）には、私達生物が棲んでいます。

太陽系の星の中で、いや、現在知り得る限りの星の中で、生物の痕跡はこの星でしか見つかっていないのです。

宇宙のどこかに我々の仲間がいるのでしょうか・・・

地球上の生き物は180万種とも250万種ともいわれ、種類も数も常に変化していて確定は困難です。

この種類を数えるには、まず、異なるものを区分けし、似たもの同志を集め更に違いを見付けて混乱しないために固有の名前を与える分類学が進められました。

動物と植物の2大グループに分けられた生物は、更に小さなグループにまとめられ、他との違いが歴然となったものに“種”としての固有の名前をつけるのです。スウェーデン生まれのカール・フォン・リンネ（1707~1778）は、2名法と呼ばれる名前の付け方で生物の分類・整理に大きな貢献をしたのです。

動物でも植物でも、おおむね、**界 門 綱 目 科 連(族) 属 節 列 種**の段階をとり、各段階に亜をつけて更に似たもの同士をまとめるのです。

さらに種には亜種の他に変種、品種などの区別をして、個体の特定をしています。

いま、植物のノイバラの戸籍表示を日本語ですると、植物界 有胚植物亜界 維管束植物門 種子植物亜門 被子植物綱 双子葉植物亜綱 バラ目 バラ亜目 バラ科 バラ亜科 バラ連 バラ属 バラ亜属 ノイバラ節 ノイバラ亜節 ノイバラ（種名）となります。通常は属と種（亜種 変種 品種）の二つを連記し、最後に命名した人の名を付け、ラテン語表示の学名として表します。したがってノイバラは、

学名 *Rosa multiflora* Thunb. 日本名 **バラ属 ノイバラ** となります。

このようにして、地球上の生物には、発見されているもの全てに名前がつけられています。

歌や小説、詩などに、踏まれて生きる道ばたの名もない草や、無情の雨に耐えて咲く名もない花だとかが、逆境の人の姿に重なって、われわれの情感を誘います。

われわれ植物に興味を持つ輩は名無しの権兵衛として放って置くわけがありません。たちどころに命名の榮譽に浴することになるのですが、このとき、属名までつけるチャンスは今ではほとんど無いでしょう。今まで発見されている生き物は既に新発見につながる余地はないからです。そこで、自分の好きなようにつけることができる種の名と名づけ親の自分の名前をつけましょう。

たとえば、名もない花が**スマレの仲間**であったら、属名は既にある *Viola* 種名は *nonna* でも *siransis* でも結構、自分の名前をつけても結構、最後は名付け親を、例えば *Hong*。日本名はこれまたご自由にといいことで、

学名 *Viola siranensis* Hong. 和名 **スマレ属 ナナシノスマレ**

というようなこととなります。植物を手がける物にとっては、こんな機会に一生の内一度は遭遇してみたいものですが、殆ど出来ない相談です。

それでも太陽系第3惑星は狭いようでも変化に富んだ星、どこかに名もない草が生えているかもしれませんね。 **夢を見ましょう、名もない花の夢を・・・**

